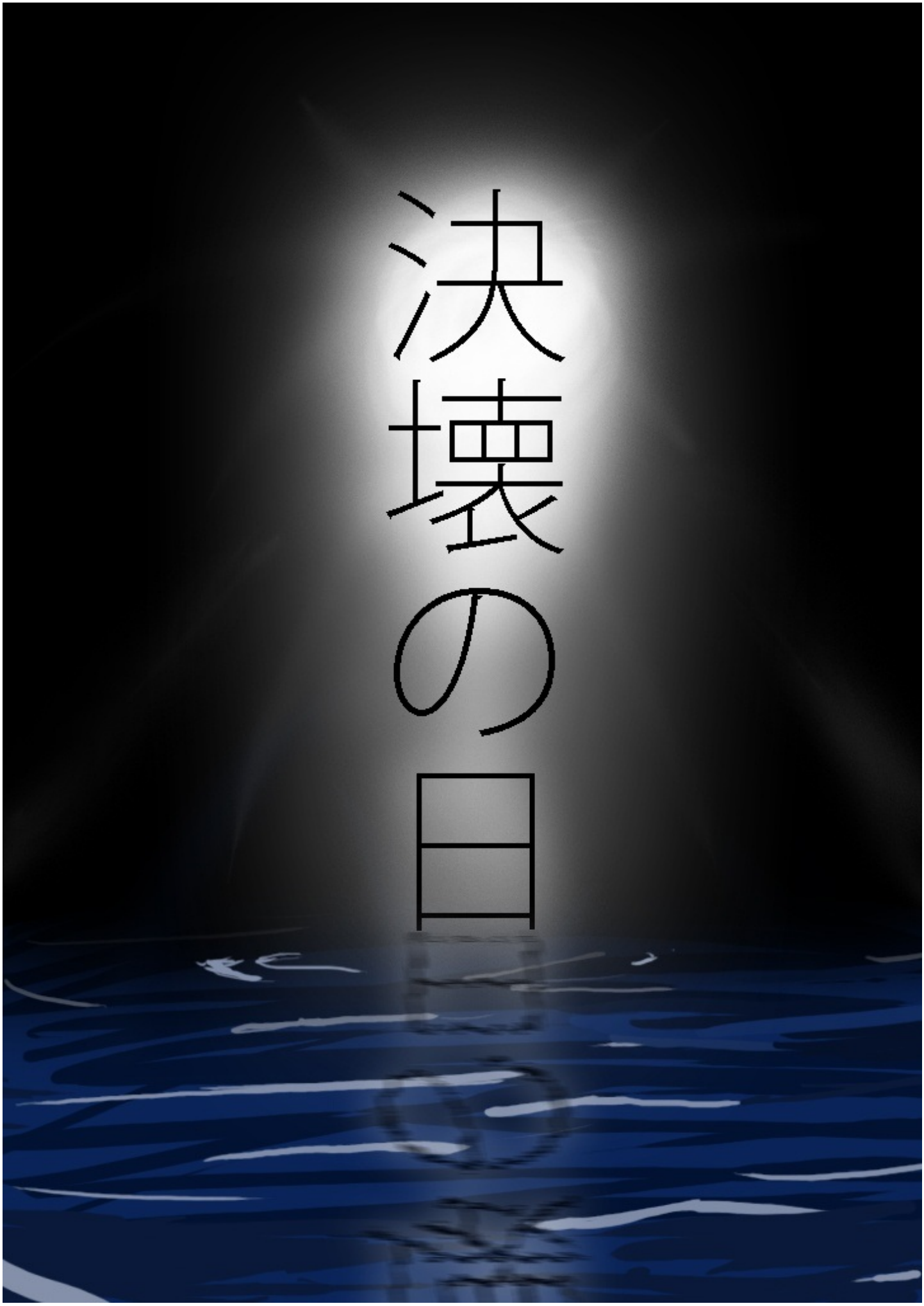
決壊の日

人物

長谷川茂生（14）中学生

後藤和子（32）茂生の恩人の妻

後藤美津子（60）和子の義母

後藤正一（66）和子の義父

後藤太一郎（34）茂生の恩人、和子の夫

田口伸介（34）太一郎の友人、受付係

谷川美穂子（44）茂生の母

参列者1（34）男

参列者2（29）男

長谷川茂生

後藤和子

①後藤家・仏間（夜）

通夜。仏壇には後藤太一郎（34）の写真。線香が上げられている。後藤和子（32）と正座で向き合う長谷川茂生（14）と川美穂子（44）。茂生の髪はくせ毛、服装は学生服。

美津子の声「（悲鳴）息子を返してよぉ！」

正一の声「落ち着けっ！　美津子！」

俯きながら隣の部屋を盗み見る茂生の頭を押さえ、茂生とひれ伏す美穂子。

美穂子「息子が大変お世話になりました」

無表情の和子。

和子「……どうか気にせんとって下さい」

立ち上がり襖へ向う和子を見る茂生。

茂生「あの、あ――」

和子「お帰り下さい。葬式は明後日ですが、母もあんな状態ですし……お越しにならないでください」

無表情の和子が襖を開ける。

③寺・門前

門前に〝故・後藤太一郎様の葬儀〟の掲示板。掲示板の前に受付の田口伸介（たぐちしんすけ）（34）。参列者達が道を行き交う。少し離れた所に立つ茂生。眼鏡をかけ、髪の毛を七三に分けている。

第二ボタンまで外し、学生服を開き見る茂生。服の下に血がついてクシャクシャの茶封筒。ボタンを閉める茂生。

茂生「……でも、お礼をいわんと」

おずおずと受付に近づく茂生。

茂生「あのう……ご愁傷さまです」

田口は茂生に頭を下げる。

田口「ご記名のほう、お願い致します」

寺から喪服の和子が出てくる。

和子「田口さん、中学生の子供来ました？」

田口「ああ、それなら……」

名簿に名前を書く茂生を見る和子。

和子の声「……夫の、太一郎の助けた中学生のお友達でしょうか？」

茂生は顔を伏せたまま目を見開く

茂生「その中学生……の友達です。僕はその、彼が来れないのでピンチヒッターです」

茂生が泣きそうな顔を上げる。

和子と田口は怪訝な顔をする。

④同・庭

参列者達で狭い庭が埋まっている。門前に参列者1（34）と参列者2（29）が立っている。

茂生は門から入り、辺りを見回す。くせ毛に戻ろうとする髪型を唾で七三に分け直す茂生。

参列者1の声「（小声）事故や。子供を助けるために道路に飛び込んだらしいわ」

参列者2の声「（小声）……まずいですね。後藤さんの代わりなんていませんよ」

茂生は目を伏せ、下唇をかむ。

⑤同・門前

木魚の音と読経の声。

⑥同・仏間

仏間奥側には後藤太一郎（34）の入った棺桶、棺桶の手前には3つの焼香台、棺桶の側には和子、後藤美津子（60）、後藤正一（66）が正座している。門から仏間にかけて参列者達が列をなしている。参列者達は焼香後、出て行く。

焼香台の前にいる茂生。

茂生はポケットから数珠を取り出し、参列者の焼香の様子を横目で見ながら、たどたどしく焼香する。

去り際に足を止め、遺族側を向く茂生。

茂生「……」

和子は茂生を気にしつつ、参列者達にお辞儀をしていく。

俯いて庭の方に歩く茂生、つまずき、眼鏡が落ちる。

眼鏡を拾う茂生の髪はくせ毛に戻る。

茂生を凝視する和子に気付き、茂生を見る美津子。

美津子「息子を返せぇ！」

茂生に掴みかかろうとする美津子を避け、茂生は驚きおののき尻餅をつく。

美津子は前に倒れこみ、泣き崩れる。

美津子「（絶叫）」

正一は美津子に走りより上体をおこす。

正一「美津子っ!!」

和子は茂生を見る。

和子「お父さん。この子を送ってきます」

和子は茂生を引き起こす。

⑦同・門前

田口が居る。寺から出てきた和子は茂生を強引に門前に引っ張り出す。

茂生はあわててバランスを取る。

茂生「え、いや、あの、すみません！」

和子「帰りぃ……君に謝ってもらっても太一郎さんは帰ってこん」

茂生の顔が曇る。
眉を顰めた和子は、踵を返す。
茂生「（震え声）でも僕には責任があります」
和子「責任？　あんたがとってくれるん？
どうやって？　（嘲笑まじりに）無理やわ」
茂生の顔がひきつる。
和子「田口さん、この子を寺に入らんよう注意しといて下さい」
田口は茂生と和子を見比べる。
田口「え？　あ、はい！」
寺に入る和子。
残された茂生はうなだれ、小石を蹴る。
茂生は踵を返し、門を背に歩き出す。
学生服を押え、しゃがみこむ茂生。
茂生「うわぁ嫌や……忘れとった」
寺の門をみる茂生。

⑧同・仏間
正面奥に立つ和子。庭の参列者は立ち。
仏間の参列者は正座している。

和子は参列者を見渡す。

和子「本日はお忙しいところ、亡き夫の葬儀にお集まり頂き有難うございました。皆様から暖かいお心づかい頂戴し、夫も喜んでいると思います」

田口の声「ちょっと君！」

和子は声の方向、庭の門を見る。

門から庭にかけ入る茂生と田口、田口は茂生の肩を掴み和子を見る。

和子「夫は子供を助けるために命を落としたと聞きました。子供好きだった夫の満足げな顔が目に浮かぶようでございます」

田口に肩を掴まれたまま、茂生は俯く。

和子「生前に故人が賜りました御厚情に御礼を申し上げますと共に、どうか今後も後藤酒造に変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。本日はご会葬まことに有難うございました」

茂生は顔を上げる。

茂生を見つめる和子。

⑨同・門前

参列者達が寺から出ていく。

和子の声「先に言っといて下さいお父さん」

⑩寺・別間

茂生と和子が正座で向き合っている。

無表情の和子は俯く茂生を見つめる。

和子「勘違いせんといてな。太一郎さんは満足してるかもしれんけど、私はあんたを許さんで、一生許さん」

茂生「あの……太一……郎さんは、あの……御礼を言いたくて……命を助けていただいてありがとうございました――」

和子「（すぐに）どういたしまして」

立ち上がろうとする和子。

茂生「違うんです！　まだ、太一郎さんがどうやってなくなったかを話してないです」

身を乗り出す和子に肩を震わす茂生。

和子は座りなおす。

和子「……どういう事？」
茂生「確か、僕が見た時、頭から血がいっぱい出てきて助からんかと思いました」
和子「……」
茂生「怖くて、逃げようと……でも太一郎さんは僕の腕をつかんだ……血まみれで」
茂生は自分の手のひらを見る。
茂生「そん時は怖かっただけで……帰った後、何を言われたかを思い出したんです」
俯く茂生の真剣な顔。
太一郎の声「お前は……そうや――」
茂生「お前と喧嘩中やったな。すまんかった。……そう言ってました。奥さんの事やと思います」
和子「……」
茂生「証拠があるんです！」
茂生は学生服の中から血のついてクシャクシャの茶封筒を出して差し出す。
茂生「これを渡されました。これを渡すために今日来ました！」

茶封筒から指輪を取り出す和子。
目を見開く和子の顔が次第に曇る。
和子「火葬が始まる……帰ってくれんか」
目を閉じる和子。
得意顔の茂生。
茂生「大事な物だったんでしょ――」
和子「帰れっ!!」
震える茂生。
茂生「何でやねんっ！」
茂生は部屋からかけ出る。

⑪同・仏間
誰もいない。
襖から茂生が出てきて、襖を閉める。
和子の声「（泣き喚く声）」
茂生は別間を振り返り、唖然とする。
正一の声「和子さん。ようやく泣けたんやな」
正一は庭から上がり、茂生に近づく。
正一「君にも辛い思いをさせてしもたな」
正一は涙を流す茂生の頭に手を置く。